株式会社 斎藤鉄工所
DX宣言書

2026年10月6日
株式会社 斎藤鉄工所
代表取締役 齋藤 和成

❑ 経営理念

私たちは、プロ（本職）としての自覚を持って自らの技を磨き、創意工夫・改善に取り組み、迅速に、正確に、美しい製品を、市場に提供し、「鉄の緊急医、相談者」として愛される企業を目指します

❑ DXビジョン（2～3年後にありたい姿）

◆ 工程管理が見える化され、全従業員が納期と自らの役割を把握して行動できる体制を構築します
◆ 設計・見積り・安全管理関係書類の作成ノウハウがデータ化され、属人化された業務を組織で分担できる体制に移行します
◆ 多能工化と技能継承を進め、誰かが欠けても相互に助け合い滞りなく業務を遂行する会社に変化します

❑ DX戦略・施策

➢ フェーズ1（現在 ～ 2027年9月）

戦略　「工程管理の見える化とDX推進基盤の構築」

施策
- 案件の一元管理を目指し、設計・加工・建設現場の工程を整理し、管理手法を検討（例：図面を起点として、各工程の担当者へ電子回覧していく方法）
- 日報の電子化に向けて、電子日報に入力する情報の精査を実施
- 工場内の通信環境を整え、現場担当者がタブレットから実績を入力できる環境を構築
- 設計・加工・建設現場における作業工数の実績管理を電子化し、、担当者が入力する運用の定着を図る
- 受領する紙の納品書をAI-OCRで読み込み、自動で仕入帳に入力することで、転記作業を削減
- 会計システムを導入し、税理士と月次業績をタイムリーに共有することで、迅速な経営判断を実現
- 銀行振込による給与支払への移行に向け、従業員への説明とインターネットバンキングの活用を実施

➢ フェーズ2（2027年10月 ～ 2028年9月）

戦略　「業務の標準化と技術継承・人材育成の推進」

施策
- フェーズ1で検討した管理手法を基に、案件の進捗をリアルタイムで把握し、全員が共通認識を持てるシステムの選定と導入を実施
- 将来的なジョブローテーションの実施に備え、若手の育成計画および技能マップを策定
- 勤怠システムの導入と給与計算システムとの連携、インターネットバンキング振込との一気通貫した運用を実施

➢ フェーズ3（2028年10月 ～ 2029年9月）

戦略　「データを経営判断に活用・多能工化の促進」

施策
- フェーズ2で構築したシステムの運用定着を図る
- 紙や各担当者のパソコンに保管されている過去の案件概要・見積書・設計データ・工数実績データを集約して保管することで、データ活用の基盤を整備
- 過去の見積書・工数実績データを見積書作成、原価管理、納期予測、受注可否判断に活用
- ジョブローテーションによる多能工化の促進により、バックアップ要員を確保した業務体制を構築
- 技能マップと資格取得状況等の個人のスキルをデータ化し、処遇に反映する仕組みを構築

❑ DX推進体制

- 代表取締役がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

❑ DX推進目標

• 工程管理の見える化	： 全案件で実施（～2027年9月）
• 事務作業時間の削減	： 2026年度比 50%削減（～2028年9月）
• 多能工化の推進	： 複数工程対応者 全従業員の50%以上（～2029年9月）

第四北越銀行